

HFC 等 4 ガス分野における排出量の算定方法について

(HFC 等 4 ガス分科会)

I. 2019 年提出インベントリに反映する検討課題

1. オゾン破壊物質の代替製品の使用 (2.F)

1.1 クリーニング機 1 台あたりの年間平均溶剤使用量の設定方法の精緻化 (2.F.5)

(1) 検討課題

ドライクリーニング溶剤からの HFC-365mfc の排出量は、機器メーカーの累積出荷・廃棄台数から推計した稼働台数に 1 台あたりの年間平均溶剤使用量を乗じて算定している。1 台あたりの年間平均溶剤使用量は、機器メーカーでかつ溶剤販売実績も有する事業者での年間溶剤販売量を累積出荷・廃棄台数から推計した稼働台数で除して求めているが、メーカー引取り以外の廃棄や利用停止している機器を反映できず稼働台数を過大に評価し、結果として排出係数が過小評価されている可能性があるため、設定方法について検討する必要がある。

(2) 対応方針

クリーニング機器メーカーでかつ溶剤販売実績を有する事業者より、2012 年から 2017 年の稼働台数及び溶剤販売データが得られたことから、同データを用いて、同事業者の年間溶剤販売量における実稼働機器台数の把握を検討し、把握された年間溶剤販売量と実稼働機器台数から、1 台あたりの年間平均溶剤使用量を設定することとする。

(3) 改訂結果

算定方法改訂後のドライクリーニング溶剤からの HFC-365mfc 排出量の推移を表 1 に示す。2017 年における排出量は約 11 万 t-CO₂eq.となっている。

表 1 ドライクリーニング溶剤からの HFC-365mfc 排出量

(千 t-CO ₂ eq.)	1990 ~ 2002	2003	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
HFC-365mfc 排出量	NO	2	6	60	86	94	109	121	120	125	112

II. 次年度以降提出のインベントリに反映する検討課題 (優先検討課題)

1. オゾン破壊物質の代替製品の使用 (2.F)

1.1 冷凍空調機器における冷媒コンテナの管理に関する排出 (2.F.1)

(1) 検討課題

冷媒コンテナの管理に関する排出に関しては、昨年度の検討で利用後に廃棄となる再充填禁止容器 (NRC 容器) が製造・販売業者等に回収されなかったケースを想定し、国内での冷媒出荷量及び NRC 容器回収状況等をもとに試算した結果から、「NE」と報告することとした。一方で、NRC 容器の利用

や回収状況により排出量が増加すると思われる、今後、排出量が増加する見込みである場合、本排出源の排出量の計上について検討する必要があることから、引き続き NRC 容器の動向について情報収集することとし、本検討課題は継続検討課題とする。

(2) 対応方針

引き続き NRC 容器の動向について情報収集することとし、今後、数年間の NRC 容器の出荷量のトレンドを踏まえ、課題の再検討を行うこととする。